

特別講演

I・K・グジュラール
アカーシ・大内 訳

大変意義ある本日のシンポジウムの開催にあたり、私は、世界に向けて私たちが発する、偉大なる貢献について思考をめぐらしておりました。

いま世界は、受難の時を迎えています。一国また一国とテロリストの攻撃を受けており、世界を混乱へと陥れる勢力が、特にアジア、カスピ海から太平洋にかけて広がっています。毎朝、新聞を読むと、そのような記事で一杯です。今朝も読みました。イラクのナジフでは、純粹に祈りを捧げている人々が殺されました。人々は、暴力とテロリストに辟易しています。

このような状況下で、こうしたシンポジウムを開催されたことは、最も適切な行動であると思います。本日は、「ネルーの館」でシンポジウムが開催されました。ここは「平和の殿堂」です。本日のシンポジウムを通して、私たちの平和の声を広く世界に発信できることを確信しております。

世界にはいま、二つの運動が展開されています。一つは暴力の運動、そしてもう一つは平和を愛する人々の運動です。これらは世界各地で起きています。私は、明日ギリシアに出発しますが、ギリシアでも同じよう

な運動が展開されています。

本日は、私にとって特によろこびの日であります。東洋哲学研究所の川田所長が、私たちの尊敬する池田SGI会長の親書を携えてきてくださいました。一九九七年に池田会長がインドを訪問された時、私は会長をお迎えする荣誉にあずかりました。そして一九九八年に、創価大学で名誉学位記を拝受した時にもお会いすることができました。池田会長のお言葉は忘れることができません。会長は、偉大なる誠意をもって、「平和の必要性」、「非暴力の必要性」について話されました。今度は川田所長から、私たちの心に響き渡るメッセージを、池田会長にお届けいただきたいと思えます。会長は世界平和の指導者です。その声は、すべての人から尊敬をもって受け入れられます。そして池田会長は、これから更に、いままで以上に平和に貢献される。私は信じております。

池田会長は、釈尊生誕の地・インドで、東洋哲学研究所の設立を構想され、のちに設立するに至ったとうかがいました。大変にうれしく思います。また昨日は、

人生は戦い

闘争を避けることはできない

選べるのは ただ

高貴なる騎士として 戦うか

手段選ばぬ野獣として 戦うかだけだ

これがモラルであり、本日のメッセージであります。

明日から、この地で始まる「法華経——世界の精神遺産」展、そして本日のシンポジウム——これらがすべて、世界の人々の注目を浴びていくことは間違いありません。そして、これらが贈る「私たちは非暴力でこそ、共に生きることができる」というメッセージが、人々に大きな希望を与え、勇気づけることを確信いたします。

(I・K・グジュラル／インド前首相)

(訳・アカーシ・オオウチ／東洋哲学研究所)

インド・センター所長

国立ガンジー博物館と東洋哲学研究所が交流協定に調印したとうかがいました。二つの重要な研究所の交流が開始されることを、大変にうれしく思っています。私たちの友人である、国立ガンジー博物館のナンダ議長が述べたように、「ガンジーが何のために戦ったか」を探求する博物館と、「池田会長が何のために戦ったか」を日々探求されている研究所の間で、交流が始まったのです。これに、世界中のガンジーに関する研究機関と創価大学が共に力を合わせれば、「平和の理念」を世界に広げていくことができるでしょう。

さてここで、池田会長からいただいた会長自身の撮影による写真集、『詩人の星』を紹介しましょう。この写真集には三つの「美」があります。一つは、池田会長の美へのまなざしであり、自然の美を見つけたす力です。二つ目は、その詩をつくりだす力です。池田会長は、まっすぐな詩心で詩をつくられています。三つ目は、英語の翻訳が大変に素晴らしいことです。実に素晴らしい翻訳です。

写真集に収められた池田会長の詩を紹介いたします。